

発表 ①



「初中等日本語教育の現状及び課題」

牧 久美子 (モンゴル国立科学技術大学)
 中西 令子 (モンゲニ統合学校)
 D.オユンゲレル (モンゴル教育
 コーチングアカデミー)

*発表順


2018年10月6日
 第11回日本語教育シンポジウム

初中等日本語教育の 現状及び課題

D.オユンゲレル(モンゴル教育コーチングアカデミー)
 中西令子(モンゲニ統合学校)
 牧久美子(ツイニング留学プログラム)

1

発表の流れ



『にほんごできるモン』
 シリーズ

1. 発行に至るまで ～2012年度以降～
2. この2年 ～モンゲニ学校の場合～
3. 現状と課題 ～教育現場の声からの考察～

2

1. 発行に至るまで ～2012年度以降～



3

モンゴル日本語教育スタンダード・教科書 作成のためのプロジェクト

年度	プロジェクト名	特徴
2012年度	モンゴル日本語教育スタンダード 作成プロジェクト	協力校: 2校
2013年度	モンゴル日本語教育スタンダード 拡大プロジェクト	・協力校: 10校 ・トピック、Can-do選定 ・全員で教材作成
2014年度	教科書 作成プロジェクト	・活動メンバー拡大 ・授業実践⇔FB ・教科書として整理


⇒⇒ 2015年3月～ 『できるモン』発行

4

2012年度 モンゴル日本語教育スタンダード
作成プロジェクト

文法・「書き」・教師 中心
の日本語教育

どうやったら改められる?



5


2012年度 モンゴル日本語教育スタンダード
作成プロジェクト

- ・協力校2校
- ・トピック、Can-do、自己評価表、指導案、教材など
全て試行錯誤しながら手作り

初めは全く分からなかった

考え方を考えるのは難しい

協力校拡大へ




6

2013年度 モンゴル日本語教育スタンダード
拡大プロジェクト

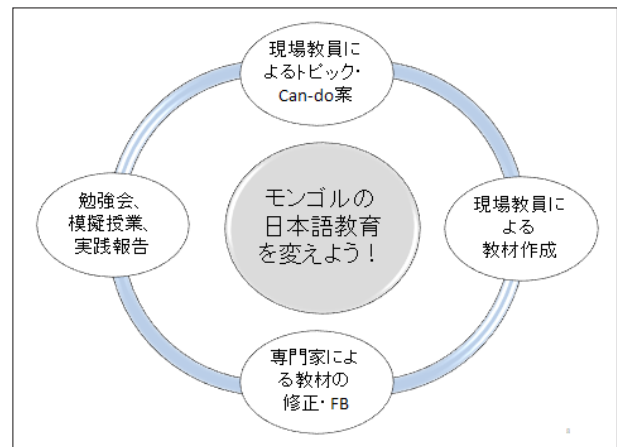
- ・協力校10校
- ・日本語教師会、モンゴル日本人材開発センター、
UB市教育局、国立大学、国立教育大学

「モンゴル日本語教育スタンダード」の大枠

- ① 社会の中で自分の考えを自由に表現し、
相互理解するための外国語教育
- ② 自律した学習者の育成



7

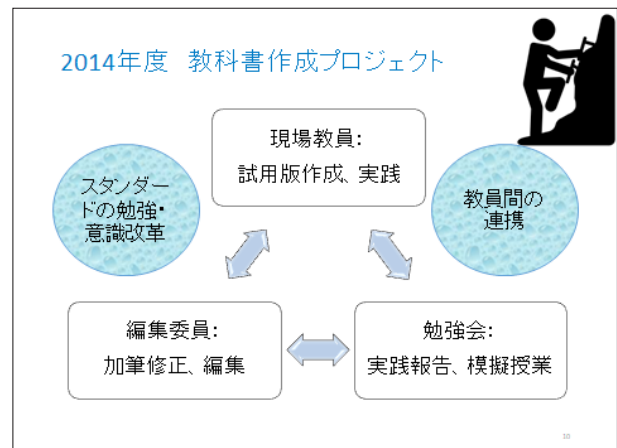


8

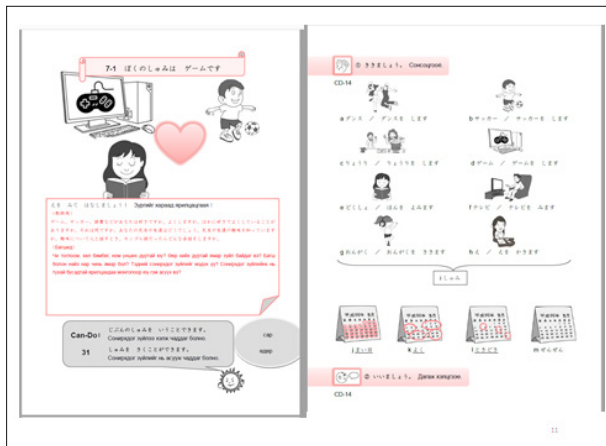


週4コマ(年間120コマ)×3学年分以上

9



10

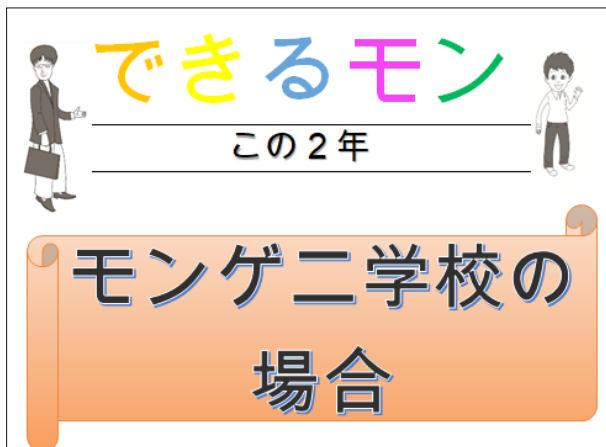


11

2015年～

2015年3月	『ひらがな』『レベル1・2・3上』
2015年5月	『カタカナ』
2016年9月	『レベル1・2上 改訂版』 『レベル1・2下』
2017年3月	『レベル3上 改訂版』『レベル3下』
2015年9月～	勉強会 (授業の工夫、模擬授業、テスト作成等)

12



13

発表の流れ

1. 学年とレベル 各レベルの内容
2. 現状 モンゲニ学校では
どのように使っているか
3. ルーブリック(自己評価表)
4. 課題
5. 見えた一筋の光
6. 呼びかけ

14

1. 使っている学年とレベル

2・3年生	『ひらがな』	
4年生	『カタカナ』	カタカナは、ア、イ、ウ、エ、オ 順ではなく、モンゴルの子どもたちが日常よく使うと思われる語彙から学ぶ。
5年生	『レベル1上』	「わたし」「がっこう」「せいかつ」「しよくじ」「かぞく」
6年生	『レベル1下』	「学校」「服」「買い物」「しゅみと休み」「人とのつきあい」

“日本人の先生がモンゴルの学校に来ている”

15

7年生	『レベル2上』	「私と家族」「学校」「町と出会い」「生活」「趣味と休日」	“日本の子どもがモンゴルに来ている”
8年生	『レベル2下』	「食事」「人とのつきあい」「体と健康」「交通と旅行」「行事」	
9年生	『レベル3上』	「私と身近な人」「学校」「生活」「趣味と休日」「住まい」	“モンゴルの子どもが日本に行く”
10年生	『レベル3下』	「ホームステイ」「食事」「交通と旅行」「買い物」「自然」	

16

できるモン が 目指したことは

- 身近なトピックで、分かりやすく楽しい授業
- 子どもたちと共に考える授業
- 押し付けない授業

17

そして、何よりも・・・

教師間のタテ・ヨコとのつながり



だったはずですが。

18

2. できるモン を

モンゲニ学校では どう使っているか

19

ひらがな 2年生～3年生

- 「あいうえお」の詩を教える
- 2年生；
アルファベットはまだ習っていないので、
読めない。
→→PPTで、絵を見せて 言う。
ペープサートで 挨拶の仕方を見せる。

20

カタカナ 4年生

- はじめに、漢字からカタカナができた
ことを話し、漢字表を配布

阿	伊	宇	江	於
ア	イ	ウ	エ	オ

21

できるモン1(上・下) 2(上・下) 3(上・下)

22

ルーブリック

できるもん1 ルーブリック評価

	A	B	C	D	E
1 自分の名前を書ける	本質に自分の名前が書えて、相手の名前を聞くことができる	自分の名前と相手に分かりやすく書える。相手の名前を聞いて、聞かされたらもう一言、聞くことができる	自分の名前と相手の名前を聞くことができる	自分の名前を書きながら、相手の名前を聞くことができる。つまづくことがある。	自分の名前を書けるが、相手の名前を書くことができない。他の生徒の書き方をよく聞かなければならない。
2 誰かを紹介することができる	転すかしがらずに積極的に紹介することができる	相手の人とは積極的に知りあおうという態度が見える	相手の人にきちんと挨拶ができる	転すかしがらずに友だちを紹介することができるが、積極的な挨拶はできない	誰かを紹介するが、挨拶が足りない。
3 年齢や学年を言うことができる	正確な年齢がわかる。日本では、小学生、中学生と分けられること知っている	年齢と学年をいえる。スムーズである。数字がすぐに出る	少し答えながらでも、間違いない年齢と学年が書える	年齢を言えれば、年齢と学年が書える。	人の紹介をすることで年齢が書えるが、学年を書くにはさらに説明が必要
4 自己紹介カードを書くことができる。終わる	もらった相手のカードを参考に書く。もらったカードに反応できる	いろいろなカードを見て、もらったカードを真ん中で理解できる	自分の名前と学年を詳しく書いて、カードを飾り、相手の名前が書ける。もらったカードに対する反応はない	カードはきれいに飾れる。名前と学年は書いてある。もらったカードに対する反応はない	カードを飾つたが、きれいで、内容にならぬ物に見える。作る。もらったカードに反応はない
5 年齢・学年の漢字が書ける	自分の名前が書ける。漢字が正しい。漢字が書ける	自分の名前が書ける。漢字が正しい。漢字が書ける	自分の名前が書ける。漢字が正しい。漢字が書ける	自分の名前が書ける。漢字が正しい。漢字が書ける	自分の名前が書ける。漢字が正しい。漢字が書ける

23

ルーブリックの作成と、それを実際に使うにあたって

- 教師が一人でやるには、限界がある。
どのように評価するかを、話し合っ、教師の独りよがりにならない評価表を作成する必要がある。
- 自己評価に慣れていよいよ学習者が多い。
- 自分を過大評価してしまう学習者への対応が難しい。
- 自己評価に、教師はどう向かうか・・・一人では対応できないことが多い

24

使いながら感じた、見えた、分かった

課題

能力試験のレベルが把握できない

親・担任からのニーズとのギャップと重さ

漢字の数が少ない

25

漢字なら、やってやろうじゃないか！



とは 言いましたが・・・

26

N4 世界地図を見る
図書館で本を借りる
合図をする

動物図鑑

図形

文の下に、書いて書いてみましょう。

1	世界地図を見る
2	図書館で本を借りる
3	合図をする

a.動物図鑑 b.図工 c.図画 d.図鑑 e.図書館 f.図形
図の、読み方が違う言葉はどれでしょう。また、それぞれ、何と読むでしょう。下から選びましょう。

ずほし、どうぶつずかん、ずこう、としまかん、ずめん、ずけい

27

なかなか 進みません。



なお続く 課題への取り組み



孤立無援

28

常に、保護者から、こんな苦情がきます。

〇〇年も 日本語を勉強しているのに、
どうして話せないの。

これ、読んで。

オルタネータ(発電機)からの発電
状態を表示。
エンジンスイッチONで点灯し、エン
ジン始動後消灯すれば正常です。

エンジンスイッチがONのとき、燃料残量
が10リットル〜5リットル以下になると、
燃料計の1番下の目盛りと燃料残量警
告灯が点灯します。

代引不可 他商品同梱不可
メール便発送送料 無料

スマホ10 プレミアム
B&A
年齢・目の状態による
つらい眼疲労に
かすみ 目薬用薬

あの字、何と読むの？
今、(NHKのニュースで)何と
言っているの？

29

学習者のニーズに 応えられない

保護者と担任の期待が重過ぎる

期待 期待

トホホ

30

大きなジレンマ

そんな中で・・・

普段 無口な子が
「先生、私の家の近くには、映画館はありません。
でも、〇〇〇があります。
〇〇〇を、日本語で何と言いますか」

教科書からときどき
飛び出そう！

教科書に付け加えたい
もののアイデアは
けっこう、子どもたち
の中にある。

31

教師間のネットワーク

32

こんな感じではどうでしょうか？

33

ルーブリックの訳を
引き受けてくださった先生

ガンチメグ先生
バヤルマー先生
共にモンゴル国立教育大学

ありがとうございました！

34



現状と課題

教育現場の声からの考察

35

初中等日本語教育 (2015年現在)

- 日本語を教える学校・・・31校（横ばい状態）
- 日本語学習者・・・約6200人（徐々に増加傾向）
- 日本語教員・・・約60人（徐々に減少傾向）

“Мангал дахь ялан хэлний боловсрол ба ялан судлал”(2016)

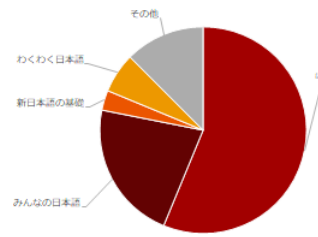
36

調査概要

- **調査焦点：**
 - 教科書の使用状況
 - スタンダード普及 v s 日本語教員
- **方法：**
 - アンケート調査
 - 聞き取り調査
- **調査協力：**
 - 17学校、教員19名

37

日本語教科書の使用状況 (2018年9月現在)



JFスタンダードに
準拠した
教科書が普及開始

38

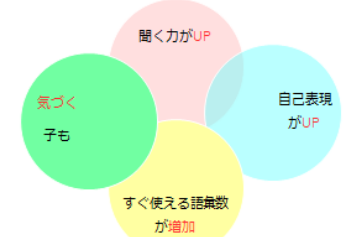
教科書選択の理由

<p>「ほんご できるモン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ モンゴル人学習者に身近なため ■ スタンダード準拠教科書のため ■ 教材開発に参加したため ■ プロフィシエンシー重視のため 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地方でも入手可能 ■ 他の教科書がない ■ 従来使用してきた ■ 内容がいい
---	---

日本語教師会による勉強会参加者と教材開発協力者の学校が「できるモン」を

39

「できるモン」の効果



40

教師が変わっても教員が変わらない？

組み合わせる教科書？次に使用する教科書？

* 片桐華二他 (2016)

41

課題

1. 教員のスタンダード理解度に差があるが、代わってきた教師が～
↓
☆現職日本語教員のスタンダード理解とピリーフ変容への促進が求められる (日本語教師会と公的機関との連携を強化)
2. 仮版教科書を認定教科書へ
↓
☆現場からの教員の意見と声をもとに教科書を改善

42

参考文献

- “Монгол дахь япон хэлний боловсрол ба япон судлал” Улаанбаатар (2016) [21-24]
- 片桐華二他 (2016) 『モンゴルにおける初中等教育機関向け日本語教科書の開発—プロフィシエンシー重視と自律学習支援への取り組み—』『国際交流基金日本語教育紀要』第12号、57-72

43

配布資料の補足

1. 発行に至るまで～2012年度以降～

- ・【牧先生】現在は大学生に教えているが、3年前まで初中等教育機関に勤め、『できるモン』作成にも関わっていた。
- ・2012年度以降3年にわたり、国際交流基金の助成を受けてプロジェクトが実施された。
- ・このプロジェクトの根底には「どうやったらモンゴルの従来の日本語教育を改められるのか」という思いがあり、初年度は協力校2校で始まった。
- ・その思いを共有して、プロジェクトが拡大していった。学校の枠を越えて現場教員が協力し、トピック、Can-do、教材作成を行い、隔週で開いた勉強会で実践報告をし合った。とても大変だったが、楽しかった。
- ・携わっていた教員達は、作成を続けていく中で、「教える」ということに対する意識改革もできた。教科書を作る、教材を作ることで「教員間の連携」もできるようになった。それが一番の成果だったと思う。

2. この2年～モンゲニ学校の場合～

<どのように使っているか>

- ・【中西先生】2011年からモンゲニ学校に勤務し、スタンダードプロジェクト開始当時から関わっている。
- ・モンゲニ学校では1年生の4学期から歌や詩などで日本語に触れ始め、2年生から本格的に文字学習を始める。『できるモン ひらがな』は、文字の読み方が英語のアルファベットで書いてあるが、2年生ではまだそれも読めないため、教師が読んだり、ペープサートを使ったりして理解させるようにしている。
- ・4年生にカタカナを教えるときは、最初に漢字からカタカナができたことを話す。対応する漢字表を配布し、どの漢字からどのカタカナができたか、ゲームのように生徒に探させる。
- ・レベル3(上・下)が10年生でほぼ終わる。

<ループリック(自己評価表)>

- ・『できるモン』が大切にしている自己評価を自身も重視し、自己評価のためのループリックを作成した(レベル1～3上)。生徒全員に配布し、基準CができればOKで、それができるようになるために自分はどうすればいいかを考えさせるようにしている。(作成した日本語版を教育大のバヤルマー先生とガンチメグ先生にモンゴル語に訳していただき、それを配布。)それを基に、補習授業の際一人一人と話し合う。
- ・ループリックは現状一人で作成しているが、『できるモン』を使っている先生方と協力して進めれば、もっといいものになると思う。

<課題>

- ・『できるモン』に漢字が少ないのは皆さんがご指摘の通りなので、今スタンダードに準拠した漢字本を作っているところ。しかし、これも一人で進めるのには限界を感じている。
- ・保護者と担任からの期待が大きく、保護者の方の望むことと『できるモン』で実施していることのギャップを感じる。

<見えた一筋の光>

- ・片桐先生の分析の中に出てきた「自分の家の近くにある子供病院を日本語で言いたい」と言った生徒はモンゲニの生徒だが、その発言から、教科書からときどきは飛び出すことの大切さを感じた。現

在は近所のノムトナラン学校の生徒と手紙の交換をしているが、このような交流をもっと広げていきたい。

3. 現状と課題～教育現場の声からの考察～

- ・【D.オユンゲレル先生】昨年度から初中等の学校に勤め、『できるモン』が使われている現場に入ることができた。そこで、今回は現場の声を集めるべくアンケート調査を行った。
- ・日本語教育を行っている31校のうち、17校・教員19名から回答を得られた。

<日本語教科書の普及状況>

- ・58%が『できるモン』を使用しており、だいぶ普及してきたと言える。
- ・『できるモン』を使用している学校の多くは日本語教師会によるプロジェクト(勉強会・研究会)に参加してきたメンバーであり、一方、別の教科書を使用しているのはそれらに参加しなかったメンバーであることが明確になった。

<勉強会について>

- ・勉強会に参加しているか、参加しない理由は何か、等の質問をした。
- ・参加しない理由…時間がかかりすぎる、地理的に無理(地方の教員)、勤務時間中に行われるため仕事を抜けられない、参加しても自身の評価に直結しない、等。

<『できるモン』使用後>

- ・学習者には、聞く力や自己表現力が高まるなどの効果があった。
- ・漢字や読解が弱い、JLPTにうまく対応できない等の教科書の欠点に対し、他の教科書や教材を組み合わせるなど教員が工夫していくことにより、教員自身も変わってきた。特に、ただ出来上がった教科書をもらうのではなく、教科書作成に自ら携わりスタンダードの勉強を続けてきた教員はそれができている。

<教員間の連携>

- ・「担当はどの学年か、カリキュラムはだれが作るか」、「他の教員の授業参観は行うか」等の質問をした。
- ・「一学年を一人で担当し、その他の学年のことはわからない」という回答が目についた。自分が担当する一学年で何ができるようになるかは把握していても、タテの連携ができていないようだ。
- ・回答者の7割近くが、「カリキュラムは一人の教員で作る」と答えた。他の教員と話し合うことはなく、経験が長い教員が作り、他はそれに従うのが一般的になっている。
- ・他の教員や他の学校の授業参観はほとんど行われていない。勉強会で模擬授業を行ったりする機会があれば行うが、自分からすすんで他の授業を参観することはないとわかった。
- ・教師会の勉強会については、教科書作成時は積極的に参加し刺激も受けていたが、最近では参加できていないという回答が得られた。

<まとめ>

- ・教員によって理解度に差はあるが、スタンダードに関する理解は進んできている。
- ・教員一人一人が抱える問題や悩みを共有し、解決する場が必要である。そのため、嶋田先生のお話にあったZoom会議は使えるのではないかな。
- ・モンゴルも日本のように、公的機関との連携も大切だろう。教育局等も交えた対策をとる必要がある。